

妊娠 10代から考えよう

中学生、高校生に妊娠や出産を視野に入れたライフプランを考えてもらおうと、県がマンガ教材を作った。20〜40代それぞれにおける妊娠や出産、不妊についての注意点を解説している。3種類の啓発パンフレットとともに県内の中学・高校に配り、6月からは地域の助産師や産婦人科医による出前講座も始める。

晩婚化で出産年齢が上がり、不妊治療を受ける人が増えている現状を身近に考えてもらおうと、初めてマンガの形にした。高校3年の女子高生が未来から来た宇宙人に自分の将来の姿を見せてもらうストーリー。主



県がマンガ教材「人生設計の機会に」

人公は、専業主婦となって20代で出産▽働きながら35歳で出産▽45歳で結婚し、体外受精での妊娠を探る――の三つのケースを目の当たりにし、「子どもをいつ、どういう形で持つか」のビジョンの大切さを知る。

マンガは、岡山市在住のグラフィックデザイナーで、朝日新聞第2岡山版「旅ぶら」のイラストマップやドラッグストアのCMでおなじみの山吹あらさがんが担当した。

パンフレットは、妊娠の仕組み▽年齢と妊娠のしやすさ▽子育てについて、の3種類で、全国統計や意識調査の結果といったデータを盛り込んでいる。

マンガ、パンフレットともに近く県のホームページにも掲載するという。健康推進課の担当者「子どもを産みたいと考えたとき、自分が将来やりたいことをどうするか。人生設計を考えるきっかけにしてほしい」と話している。

（波多野大介）